

私たちの一つの提案！です。

		大町市	白馬村・小谷村
現 状		<p>大町市環境プラント</p> <p>■能 力 60t/日(実績:30t/日)</p> <p>特質事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ○まだ寿命がある ○周辺住民と22年までの移設を約束 	<p>白馬山麓清掃センター</p> <p>■能 力 30t/日(実績:20t/日)</p> <p>特質事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ○まだ寿命がある ○ダイオキシン対策の借金が残っている
	北アルプス 広域連合の 計 画	<p>新ごみ処理施設建設</p> <p>■能 力: 48t/日</p> <p>■場 所: 白馬村飯森地区</p> <p>■本体工事費 33.3億円 + 基礎工事費(???億円)等</p> <p>問題点</p> <ul style="list-style-type: none"> ○風が弱く盆地なので排ガスが地表にたどよう ○しかも、住宅地の近く(名鉄定住者は約100世帯) ○景観を損なう ○地盤が軟弱 ○土地を取得しての建設なので、永遠に景観破壊、排ガス汚染が続く <p>→ 住民の健康被害が懸念される</p> <p>→ 観光客の減少</p> <p>→ 莫大な基礎工事費が掛かる</p>	
提 案	当 面	<p>大町市単独で 新ごみ処理施設建設</p> <p>■能 力 30t/日</p> <p>■場 所 大町市内</p> <p>■本体工事費 15億円以下 (串本町では同じ能力の施設が9億円)</p> <p>利 点</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 周辺住民との約束を早期に実現できる ○ 場所は、行政・市民・専門家の協議により、大町市民にとって最適な地を選定できる ○ 飯森地区の場合必要となる、追加の運搬費5千8百万円/年が殆ど不要 ○ 白馬山麓センターの余寿命5年分の補償負担を支払わなくて済む 	<p>白馬山麓清掃センター を継続使用</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 分別の徹底! ● ごみの減量により運転経費の節減! ● ごみの減量により施設寿命の延長! ● 行政・住民による新ごみ処理施設の検討! <p>利 点</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 借金が無くなり、村の財政にプラス ○ 育児・教育、福祉、観光行政の充実 ○ 景観も変わらず観光へのダメージなし ○ 排ガスの汚染もひどくならない ○ 建設賛否の意見対立が無くなる
	将 来	<p>あなたは どちらを選びますか 広域連合の計画ですか? 私たちの提案ですか?</p> <p>白馬村・小谷村の 新ごみ処理施設建設</p> <p>■能 力 減量に見合った能力</p> <p>■場 所 白馬・小谷協力して選定 景観・排ガス・地盤の問題のない場所</p> <p>■本体工事費 5億円以下目標</p> <p>利 点</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ごみ行政について十分検討できる ○ 行政・住民とも納得する施設ができる ○ 小さい処理施設なので、建設費が安い ○ 借金・経費が圧縮され、財政にプラス 	



9月中旬、木芸作家：高橋本榮さんを訪ねて、ごみ処理施設建設問題などについてのご意見を伺いました。日展に向けた制作にお忙しい中、手を休めて快くインタビューに応じてくださいました。

そうした作品を発信していかなければいけない」と日々語っていました。

私もその言葉を胸に、美意識のない人にも“美の眼”を持っていたらだければと、白馬の自然美を発信したいとの意欲で制作しています。(高橋さんの作品を見せて、木精(こだま)が響いてくるのを感じました！：レポーター談)

たぐいまれな白馬の自然美を後世に残すためにも、いまは村民あげての論議が必要な時ですね。

もっと勉強し、事実を確かめ、自ら判断したい

Q: 梶山弁護士の講演をお聞きになったそうですね。

A: はい、講演後にも尋ねたい事がありお話ししました。講演は、ごみ問題を本質から捉えるよいきっかけになりました。全国の状況を知り、もっと勉強し、事実を確かめ、自ら判断しなければいけないと思いました。現状では、勉強の手立ては多いとはいえません。説明会や勉強会、資料ももっと多くてもいいですね。情報公開は、村づくりの原点です。

梶山さんは、燃やすごみが少なくなるのは趨勢(すうせい)だと言っていましたね。ごみの減量に向けては、少なくとももっと努力できる。飲料メーカーなどの協力も得たいし、大きな見地で考えていかなければいけない。日本とは逆だというヨーロッパのごみ政策のお話など、いま思い出しています。

門戸は広く、機会は多いほど良い

Q: ごみ連協は、連合長に「公開討論会」の共催を申し入れています。

A: それもひとつの方法ですね。門戸は広く、機会は多いほど良いと言うのが私の考え方です。普段は来ない人にも、自分のこととして将来を考え、意見を言っていたらいい。そういう場の提供は大切です。その経験が人を育てるのです。

Q: 推進派や村長が「今飯森を受け入れなければ、今後白馬村にごみ施設はなくなる」と言っていますが...

A: 誘導とはっきり分かるようなことは、言うべきではないですね。

観光を標榜する村には使命がある

Q: 住民説明会に参加して、どんなことを感じましたか？

A: 反対の声が多いかと思っていたわりには推進の声が多く、なんとなく違和感を覚えました。普段、こうした場に出てくる機会の少なかった若い人が、関心を持って参加していたのは好ましいと感じました。「穂高を通るたびに、ごみ施設の煙突を見るが違和感がない」と、飯森受け入れを肯定する発言がありましたが、見慣れるほどの時が経てばそうでしょう。しかし、人によって異なる主観だけに説得力のある意見とはいえません。

白馬には、その自然に魅せられて移り住んだ人が多いですね。美味しい空気や景観に憧れて来ているのですから、その身になって考えなければいけない。観光を標榜(ひょうぼう)する村なら、移住者のことも、訪ねてくれるお客さんのことも存分に考えたい。これは、観光地の使命としてとても大切だと思いますよ。

封建色を絶ち、「心」を大切に...

Q: 最後に、高橋さんの考える「村づくり」で大切なことは？

A: 難しい質問ですが、私なりの考えでいいですね。はっきり言って、封建的な土壌が色濃く残っていて、“しめつけ”などがあることに疑問を持っています。

懇意にさせていただいている、今の信州美術会会長の城田孝一郎さん(新制作協会、彫刻家)から、「真の芸術は“壊しては創る”ことであり、また平等でなければならない」ということを最近お聞きし、感銘を受けました。過去の栄光やしがらみに囚われ、引きずるのではなく、何が一番大切かを見極めて新たな挑戦をしていかなければならない。そのポイントは、何と言っても「心」であり、決して「技術」ではないのです。これを「村づくり」に置き換えて解釈してください。(笑)

お忙しい中、ありがとうございました！：ごみ連協 広報部

白馬から発信したい、「美の眼」

Q: 作家として、高橋さんが希求してものと通じるものがあるのでしょうか？

A: 白馬の自然や景観が貴重な財産であることは、美意識を追求する私の仕事とも関連していることは強く感じます。

信州美術会の会長だった高橋 節郎(たかはしせつろう)先生(文化勲章受章の漆芸作家、豊科出身・故人)は、「信州は自然が豊かだから、

